貧乏神の鉄

出しゃばり、出る杭は打たれる、出物腫れ物ところ嫌わず。などと日本人には「出る」はあまり好かれず、できれば平凡に他人より突出しないよう、でも決して下がり過ぎないように生きて行きたいという価値観がある。いずれにしても目立つから。空き地で威張りくさって高々と伸び、嫌がられるセイタカアワダチソウより、草の中に紛れ込んで小さな花を咲かせる露草の方が侘びっぽくて好き、なんて言うのかね。

しかし、すべてがそういう傾向になってしまうのはかえって問題。漢字の場合は特に、画線がある画線から出ると出ないのとは意味がまったく違ってくる。出るところは出る、出ないところは出ない。これが大事なのである。そう言えば和服の着付けのときは出るところは押さえ、出ないところには詰め物をするのでしたな。

「田・由・甲・申」「刀・力」「工・土」「石・右」

	文字	音	意味
1	屮	テツ	めばえ
2	凵	サン	やま
3	毋	ブ	否定
4	毋	カン	つらぬく
5	匕	カ	変化
6	匕	ヒ	さじ
7	己	コ	おのれ
8	巳	ミ	十二支ヘビ
9	巳	イ	やめる

これらの文字は学校で習っているはずだから間違えることはないと思うが、右表の文字になると果たしてどうやら。

「嗤」（音：シ、わらう）という字があるが、この旁の上は右表「屮」である。これを「山」と書いてしまう人がいる。知らない字形は自ら誤りと決め、「直し」てしまう傾向が強い。

右表「毋」は「ない」という意味の否定詞であるが、デザイン書体など言うデザイン文字では右下の交差部分を取ってしまうことがある。そのほうがデザインコンセプト上すっきりするからと言うのが理由だろうが、そういう字形が別字「毋」にあるのだということも忘れずに。

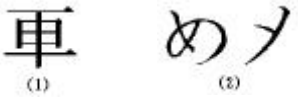
「匕」・「匕」は公然と同じとみなされる文字である。楷書の世界では包摂字形となって

いる。JIS-X0208 でもこの両者を包摂関係にあるとしている。「化」がよい例で、本来旁は「 」であり、だから「化」は音が「カ」なのだ。それを常用漢字では「化」と書かせているのである。だが、ちゃんと別字である。

「己」・「巳」も混同される文字で、「祀」の旁を「己」と書いて憚らない人がいる。逆に「記」の旁を「巳」にして旧字であるという人もいる。

以上の知識不足のために起こる図形誤認は、東アジア地域における国際的な問題であるが、これからご紹介するのは日本だけに特有なお話である。

さて次の 2 字はなんと読む？



答え：(1)は電車。頭が出たら「車」だが、出てないから「でぬしゃ」である。

(2)は「でたらめ」の平仮名版と片仮名版である。「め」「メ」の一部が欠いてあってその部分が出たら「め」「メ」になる。出ていないから「でたらめ」なのである。

一時期流行った頓知というかクイズと言うか、文字遊びである。これは冗談である。

(あらかじめお断りしておくが、何人もこの字の存在を公式に認める必要はない。特にこれらの文字に対してコードを振ることは不要である)

では右のような文字を見たことがあるだろうか。音は「シ」、意味は「やじり」である。「やじり」の意義で我々が通常使う文字には「鏃」がある。この「鏃」ですら博物館で展示してあるヤジリの名札で使われるくらいで、日常的に使うのなら「ヤジリ」と書いてすむ。だからこの文字はその意義では使わない。この字には日本だけの特殊な使用法がある。

この文字は「鉄」の俗字として使う。

「鉄」の本来の字形は「鐵」であり古字は「銕」で、「鉄」は俗字体である。当用漢字（常用漢字でない）制定時に画数を簡略化するために「鉄」の字体を選んだから日本では「鉄」が正字となる。

使おうと思えば「てつ」の字は上のように 3 種もある。しかもわりと認識されている。なのに「金偏＋矢」は誤字なのに何故使われるか、存在を認めるのか。認めざるを得ない。学問的には誤字であっても、日本では次の理由で通用させてしまっているからだ。

ではどこで使っているかと言うと「製鉄」か「鉄道」を業としている一部の会社名である。
例えば「○×製鉄」「△○電気鉄道」である。これら社名の「鉄」は「金偏＋矢」である。使う理由は「金を失うのはいや」である。縁起かつぎ、理由はそれだけである。

この「金偏＋矢」の使用例は最近見なくなったと思っていたら、国鉄が民営化された時また現れた。「東日本旅客鉄道（＝JR 東日本）」がこれを使った。
「鉄」はゲンが悪いから「金偏＋矢」を使う。こんな考え方がまだ残っていたなんて、なんとなく嬉しいような気がした。
ただこの漢字を使ったことで「金偏＋矢」の昔の使用例を知っている人からは「体質は古臭く国鉄時代と変わらないのではないか」と思われ、知らない人からは「間違い字を使っている」と非難されはしまいかと心配もした。余計な心配である。

漢字遊びがひょんな事から信仰にまで発展した。「いわしの頭も信心から」と言ったら失礼か。